平成30年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査結果

(平成31年3月31日現在)

1 犬と猫の寄生虫調査

(1) 検体採取期間 平成30年4月から平成31年3月まで

(2) 対象及び規模 犬 16 頭(延べ検体数 17)、猫 49 頭(延べ検体数 63)の糞便

犬 9頭、猫34頭の虫体

(3) 方法 直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定

解剖検査による心臓内及び消化管内における虫体確認と同定

(4) 結果

糞便検査(虫卵)

対象	陽性	内訳					
(延べ検体数)	頭数(%)	回虫(%)	イソスポラ属(%)	条虫(エキノコックス含む)、鞭虫、鉤虫等 (%)			
犬 16 頭 (17 検体)	0 頭 (0.0)	0	0	0			
猫 49 頭 (63 検体)	9 頭 (18. 4)	8 頭 (16. 3)	2頭(4.1)	0			

解剖検査による虫体確認

	陽性	内訳				
検体	頭数(%)	回虫(%)	条虫(エキノコックス含む) (%)	鞭虫、鉤虫等 (%)		
犬 9 頭	0	0	0	0		
猫 34 頭	13 頭 (38. 2)	6頭(17.6)	瓜実条虫 10頭(29.4) 猫条虫 1頭(2.9)	0		

2 犬と猫の SFTS (重症熱性血小板減少症候群) ウイルス遺伝子モニタリング調査

(1) 検体採取期間 平成30年7月から同年12月まで

(2) 対象及び規模 犬10頭の血清、唾液、猫9頭の血清、唾液

(3) 方法 リアルタイム PCR 法によるウイルス遺伝子の検出

検査は、東京都健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科に依頼

(4) 結果

		血清			唾液		
	検体数	陽性数	%	検体数	陽性数	%	
犬	10	0	0.0	10	0	0.0	
猫	9	0	0.0	9	0	0.0	
計	19	0	0.0	19	0	0.0	

3 猫を用いた新たな脳摘出法の検討

狂犬病臨床研究会および国立感染症研究所獣医科学部の助言・指導の下、開始した。

(1) 検体採取期間 平成30年4月から平成31年3月まで

(2) 対象 猫 25頭

(3) 方法 剖検による脳の摘出

(4) 結果 ニッパーを用いた小型動物の開頭方法を考案